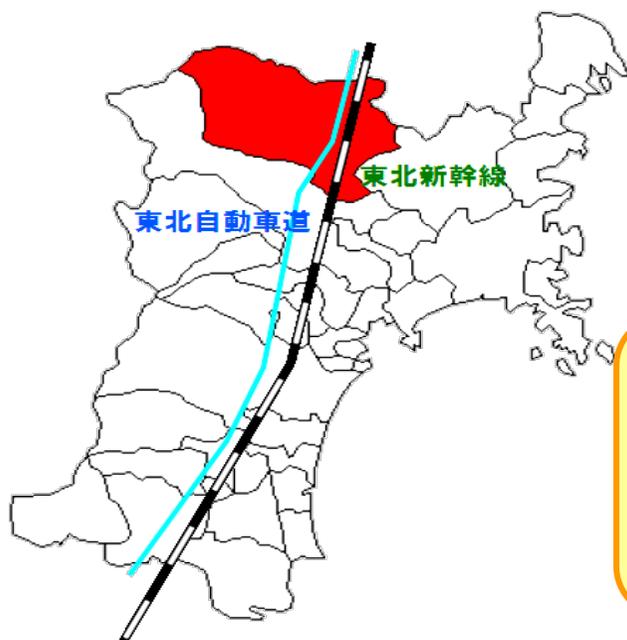


ホワイトスペース活用によるエリアワンセグでの 災害情報等の配信 (宮城県栗原市の事例)



- ・H17年4月 10町村が合併して誕生
 - ・面積: 804.93km² (東京23区とほぼ同じ)
 - ・人口: 76,976人 (東京都の約0.6%)
- H22.7月末(住民基本台帳人口)

岩手・宮城内陸地震発生（H20年6月14日）



▲荒砥沢ダム付近



▲駒ノ湯温泉付近



▲避難の様子



▲避難所の様子

1 災害発生直後

地震により孤立した集落が携帯電話等の電波が弱いエリアだったことから、災害発生直後に正確な現地情報を得ることが困難だった。

2 避難所開設後

避難所に避難する市民は、昼間と夜間、初日とそれ以降などで流動的に推移することから、被害の最新情報や避難生活に係る情報を、均一かつ正確に伝達することが困難だった。

ホワイトスペースを活用した「栗原市災害情報緊急ホットラインシステム」

災害時においてエリアワンセグにより災害情報や地域情報を配信し、災害時における早期情報手段の確保や被災地の安心・安全の確保に寄与する。

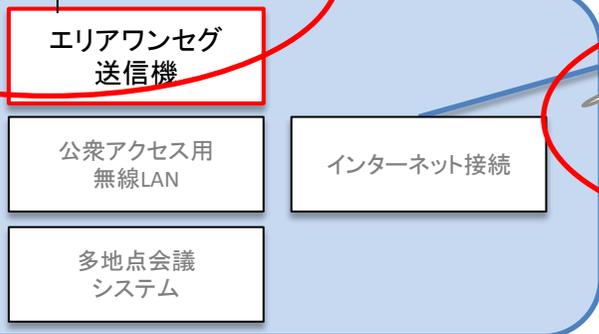
遠隔地の災害対応機関



被災地に設置した災害対策本部との情報共有や、遠隔地の復旧・医療などのボランティア機関との連絡体制が短時間で確立できる。

インターネット

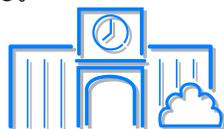
常設システム(避難所等)



移動システム(被災地等)



市役所、避難所など数カ所に常設システムを設置し、災害時には情報提供や共有を迅速に開始する。平常時は、市民のコミュニケーションツールとして活用する。



衛星通信システムや電源システムは既存のインフラに依存せず、電気や通信のライフラインが断絶した場合にも、移動システムによって情報基盤が展開可能。

※栗原市資料より作成

栗原市によるホワイトスペースの利活用について

1 災害発生時のホワイトスペース利活用

(1) 情報伝達ツールとしてのエリアワンセグへの期待

- ・紙媒体に依存しない情報提供手段を確保し、一斉配信で正確で迅速な情報伝達を可能とする。
- ・映像、音声、テキストなどのデータや、市長からのメッセージ、地域の被災情報、被災者支援情報を発信する。

<総合防災訓練におけるデモンストレーション>



▲エリアワンセグによる情報提供



▲エリアワンセグの送信機等

2 平常時のホワイトスペース利活用

(1) 日常的な行政情報の発信手段

- ・定期的な行政情報の発信や大規模イベント等での活用を検討する。
将来的には、市民による市民のための情報発信への活用を目指す。

(2) 高齢化・過疎化が進む地域への普及

- ・高齢者の「情報過疎」が課題となっていることから、市内の独居老人や高齢者世帯に対し行政情報を適切に伝える手段として活用を検討する。

※栗原市資料より作成

いわゆる「ホワイトスペース」とは

放送用などある目的のために割り当てられているが、地理的条件や技術的条件によって他の目的にも利用可能な周波数。

(例)



各地域ごとに、その地域で放送用に使用されていないチャンネルがある。
ただし、その地域においてホワイトスペースであるチャンネルを用いても、既存事業者に影響を与える場合があるため、調査が必要。